

会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回飯塚市地域福祉推進協議会
開催日時	令和4年10月25日(火)14:00～16:00
開催場所	飯塚市役所 1階多目的ホール
出席委員	15名(小賀会長、伊佐副会長、浅田委員、阿波委員、大久保委員、大塚委員、岡松委員、吉良委員、坂本委員、櫻木委員、白瀧委員、友松委員、長谷部委員、松原委員、安永委員)
欠席委員	3名(高岡委員、山田委員、渡辺委員)
市職員	森山課長、松本課長補佐、平田係長、山田
委託業者	株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所(森山)
会議内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長あいさつ <p>2 議題</p> <p>(1) 第3期飯塚市地域福祉計画の骨子(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①骨子案の説明 ②事前質問等の回答 <p><事務局による説明></p> <p>[事務局]</p> <p>委員の皆様から、事前に意見・質問等をいただいているので、先に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元号表記と西暦表記が混在している意見があった。両方記載か元号のみか、後に協議で意見をいただきたい。 ・7ページにある「飯塚市地域福祉計画推進協議会」は、この協議会とは別のものか質問いただいたが、この協議会をさして記載誤りのため「飯塚市地域福祉推進協議会」へ訂正する。 ・自治会とまちづくり協議会との関わりがどのように位置づけられるか質問いただいた。その点については、26ページに図示している分でご理解いただ

きたい。

- ・活字が小さく読みづらい意見をいただいたが、レイアウト等、最終的には整えて計画作成するのでご了承いただきたい。
- ・会長とも話したが、飯塚市に寄り添った計画内容になるように協議したい。他、誤字脱字等の修正も確実に行っていく。

[委員]

「アウトリーチ」という言葉は一般的なものか。文章を読んでもわからなかった。

[会長]

横文字については使わないか、文章で説明して、括弧をつけてアウトリーチと記載するなど、誰にとってもわかりやすい表現に変更してもらいたい。

[委員]

7 ページにある、「飯塚市地域福祉計画推進協議会」というのは、誤りではないか。

[事務局]

その通りだ。修正する。

[委員]

これから具体的な取り組みが提出されると考えてよいか。

[事務局]

今回は、大枠のところ、計画の体系のところを審議してもらい、承認をいただきたい。そのうえで、計画推進に向けた取り組みを記載し、資料を掲載し、最終的な計画書を作成していきたいと考えている。

[委員]

3 ページ②持続可能な開発目標 (SDGs) との関係に、「地方自治体の福祉施策推進においても、SDGs という世界共通の目標を組込むことが求められている」とあるが、もともと福祉計画そのものが SDGs であり、組込むというよりは、福祉で言ってきたことによりや周囲が追い付いてきたことであるので、文章の再考をした方がよいと思う。

また、44 ページ計画の体系に関連して、飯塚市において ICT を活用した行政サービスの推進がどうされているのか。というのも、この計画で、地域の福祉ネットワークをどう作るだとか、若い世代に対してなどの課題が挙がっていたと思うが、それを視野に入れたときに DX の話に触れておかなくてよいのかと思うが、いかがか。

[会長]

1点目についてはその通りのため、文章の再考をお願いしたい。2点目については、事務局いかがか。

[事務局]

委員の話聞いて、その通りだと感じた。飯塚市でもDX推進の組織を設置している。部局が異なるので、そこまで考えるまでに至ってなかった。この点は、内部で協議させていただきたい。

[会長]

計画書を完成させるにあたっては、全庁的に集まり、全体的に齟齬をきたさないようにしてもらいたい。

[事務局]

全庁的な対応については、当然各所に確認を求める。計画案が作られたら、当然意見募集を行うが、担当部局が確認の上でしか出せないという形になっている。今会長が言われたことについては、前回の会議で行った現行計画の振り返りへの意見に対する専門的知見からの回答という形になるかと思う。課長の出席まで求めるのかについては、検討させてもらいたい。

[委員]

前回みたいに課長たちが出てきて答えてもらおうと、非常にありがたい。事前に質問意見等を取って、関係各所に周知してもらいたい。やはり、資料を読み込むには、時間が欲しい。

44ページの体系とところ、1が自治会レベル、2が校区レベル、3が市全体レベルと分けたのはわかりやすいと感じたが、前回とのつながりはどうなるのか。

[事務局]

1点目については、できるだけ時間を設けたいと考えている。2点目については、基本的に第2期と同様の構成としている。大きな違いは無い。

[会長]

わかりやすくなるものであれば、わかりやすくするようにちょっと工夫をしてみる。例えば、2ページ、26ページ、44ページ、ここにある図表など、一貫性を持たせると分かりやすくなるのではないだろうか。

[委員]

計画書内に、自助、公助、共助という言葉が出てくるが、周知されているものなのか。

[会長]

それらは、国の政策のなかで出てきたものだ。個人的には、自助、公助、共助は、明確に分けることはできないと考えている。国の地域福祉に関する政策文章が、この計画書のなかでも多く使われている。そのため、飯塚市民にとってどうということかという点はわからない表現になってしまう。市民の生活の実情に合わせて文章を検討する必要があると思われる。

[委員]

44 ページのところは、26 ページの図と合わせると、わかりやすくなると思った。文章は、私にとって難しかった。これからの協議会で、44 ページに基づき飯塚市がこれからどうしていきたいか、ということに着目していきたい。

[委員]

自助、公助、共助ということについてだが、地域のなかには困っている人がおり、それを助ける人、助けてい人が必要となる。その助けてい人を支える、そのための地域通貨制度というものを考えられないだろうか。飯塚市でも健康ポイント事業を行っているが、そのようなことができないだろうか。課題解決に有効ではと思っている。この計画の中に具体的に書くのは、詰めていないし、他部署で考えてあると思うので、何らかの形で入れていただけたら。

[委員]

ごみの問題をどうにかして欲しい。新しいアパートにはごみ置き場が設置されているが、古いアパートにはそうしたものがない。必ずごみ置き場を設置してもらいたい。

公民館が使用できない。使用权は公民館長にある。自治会長によって判断が異なる。公民館の利用を推進するようなあり方を希望する。

[会長]

ごみの問題は、地域福祉の課題ではない。そうした問題は、例えば、まちづくり協議会などの範疇かと思う。ごみということについていえば、体が動かない人がごみを出せないといった場合に、どのように助けるのか。こうした事例が地域福祉の課題となる。

[委員]

子育て支援センターを運営しており、次のようなことがあった。飯塚市に転居してきたマタニティのママが、不安なのだという。というのも、以前住んでいたところでは、「陣痛タクシー」というものがあった。飯塚市にも当然あるものだと思い確認したところ、そうしたサービスは行っていないということであった。そうしたこともあり、タクシー会社に自分で確認してみたが、対応してないとの

回答や返答がなかった回答だったということであった。こうした話を聞いたこともあり、こうしたことがあればよいという意見を計画書の中に案として出して、それを地域の人たち、事業所、行政の人たちが協働しながら、そうした人たちを助け合えるような形になればよいと思った。

[会長]

児童福祉に、次世代育成計画（子ども子育て支援計画）があり、そのなかで見直し時期に具体的に検討してもらうかどうかが必要かと思うが、事務局いかがか。

[事務局]

ご指摘の件は、担当課には聞いてみたいと思う。個別具体的な施策については、他部門ということもあり、この場ではお答えすることはできない。担当部局にはつなげることはできる。そういったところで、ご理解いただきたい。

自助、共助、公助ということについては、第2期計画では、計画の体系にもとづいて4章に記載している。自助のところは、市民と括弧書きしており、同様に共助では自治会、地域団体、社協に求められる役割が書かれてあり、公助のところは行政の役割が記載されている。こうした説明がなかったため、わかりづらいところがあったかと思う。

[委員]

27 ページ以降に第2期計画のふり返りのなかに「自助」の記載がないが。

[会長]

自助については市民に求めることなので、ことの性質上、記載する必要はないと考える。調査のなかにもあったが、市民のなかでも手助けする意識のある市民は結構いる。できない理由として、仕事や子育てで忙しかったりと、それぞれの事情がある。そこで、行政がどのようなことを行えば、市民間での助け合いが行えるかを考える必要がある。

[事務局]

会長の発言と内容は同じとなるが、計画の中には、市民一人一人に求める部分も含まれてくる。これについては、33 ページ以降をもとに組み立てていく流れになってくるのではないかと考えている。

[会長]

地域福祉計画は、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉の3つの柱からなるが、そのいずれでも対応できない問題を拾い上げるということも地域福祉の重要なところだ。また、地域福祉計画策定のなかで明らかになった課題を、各計画に投げかけていくということもこの会議の役割だ。できることとできないことを整理しながら、できることを丁寧に進めていくということになる。

[委員]

社協では、助け合い活動をしている。最近社協では、「互助」という考え方を持っていて、取り組みを進めている。地区社協においても、自治会長、民生委員、福祉委員と協議しながら「生活支援体制整備事業」を行っている。協議の中で、ゴミの問題や自治会に人が入らないことについて考えている。自治会に加入の有無に関わらず、災害の際はやっていかなければならないということで、互助に取り組んでいる。また、会議でも言われていたような、制度の狭間で助けることができない人への取り組みも進めていく必要があると考えている。社協と行政と協力して進めたいと考えている。

社協では、来年地域福祉活動計画を策定する。地域福祉計画策定のなかで出された住民の意見を考慮しながら、活動計画を策定していきたい。

[委員]

フレイルのサポートをしているが、サポートする側の移動手段の問題も考える必要があると思う。また、移動手段がなく地域に埋もれてしまっている高齢者がいる。車がないから外に出られないなどのフレイル予備群の人たちがいる。買い物も重要だと思うが、フレイルを防ぐためにも、フレイルを広める必要があると思う。

[委員]

横の繋がりが行政にはない。庁内で、どういうことをしているか、課題があるか、解決策があるか、共有してほしい。集まりを月何回などやれば、今よりスムーズになるのではないかな。

[会長]

飯塚市地域福祉計画は担当部局のみで担当するものではない。前回の会議においても、関係する課が集まった。そのように地域福祉計画は、部局を超えたものとして作ってきた。飯塚市行政での他の分野ではどうなっているかわからないが、地域福祉計画を進める上では、全庁的に進んでいるとご理解いただきたい。

[委員]

自治会員がいなくなっている。これをどうされているか教えてほしい。福祉タクシーについては、もう少し台数を増やしてほしい。

[委員]

福祉タクシーについては、少しずつ前に進めるようにしていると聞いている。

[会長]

自治会の件については、行政が強く関与してしまうと大変なことになる。だか

	<p>らこそ、自治会に多くの人に参加できるよう自治会の体制を整え直していくとか、自治会のあり方を考え直すということなどを考える時期に来ていると思う。ただ、地域福祉計画で自治会をどう組織するのかというのは、地域福祉上の課題とはならない。自治会側から、行政からこのような手助けがあればという提案があれば、具体的に考えられるのではないかと思う。</p> <p>(2) その他 意見なし</p> <p>[事務局] 次回の協議会について 12月20日(火)14時00分から。</p> <p>3. 閉会</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会次第 ・委員名簿 ・第3期飯塚市地域福祉計画の骨子(案)について
<p>公開・非公開 の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 1名)</p>
<p>その他</p>	